

甘棠館の由来となった「甘棠の愛」

甘棠は実を付ける樹木でズミ、ヤマナシとされていますが、柴田氏庭園ではヤマモモと伝わってきました。この木は中国古代の書「詩経」に出てくる詩「甘棠」で有名です。これは、「周の召公は国内をくまなく歩いて甘棠の下で人々の訴えを聴き、争いごとを裁いた。人々は召公の仁徳と善政を思い、その甘棠を惜しんで木を切らなかった」という詩で、ここから為政者に対する人々の敬愛を「甘棠の愛」と呼ぶようになりました。

柴田権右衛門は、小浜藩主をもてなす建物を「甘棠館」として、市野々村の開発に援助いただいている藩主に応え、また市野々村を治める庄屋としても、村民に慈愛の心を示したものと思われます。



柴田氏庭園の駐車場につるがシェアサイクルポートがあります！敦賀駅から約3.7kmです。

公開時間 午前10時から午後5時まで
休館日 毎週水曜日(水曜日が祝日の場合その翌日)
年末年始(12月29日から翌年1月3日まで)
入館料 [個人] 大人200円 中学生以下100円
[団体] 大人150円 中学生以下 50円
(団体は1回の入館者数が20人以上)
*4歳未満の者、障がい者及びその介護者(障がい者1人につき1人に限る。)については無料



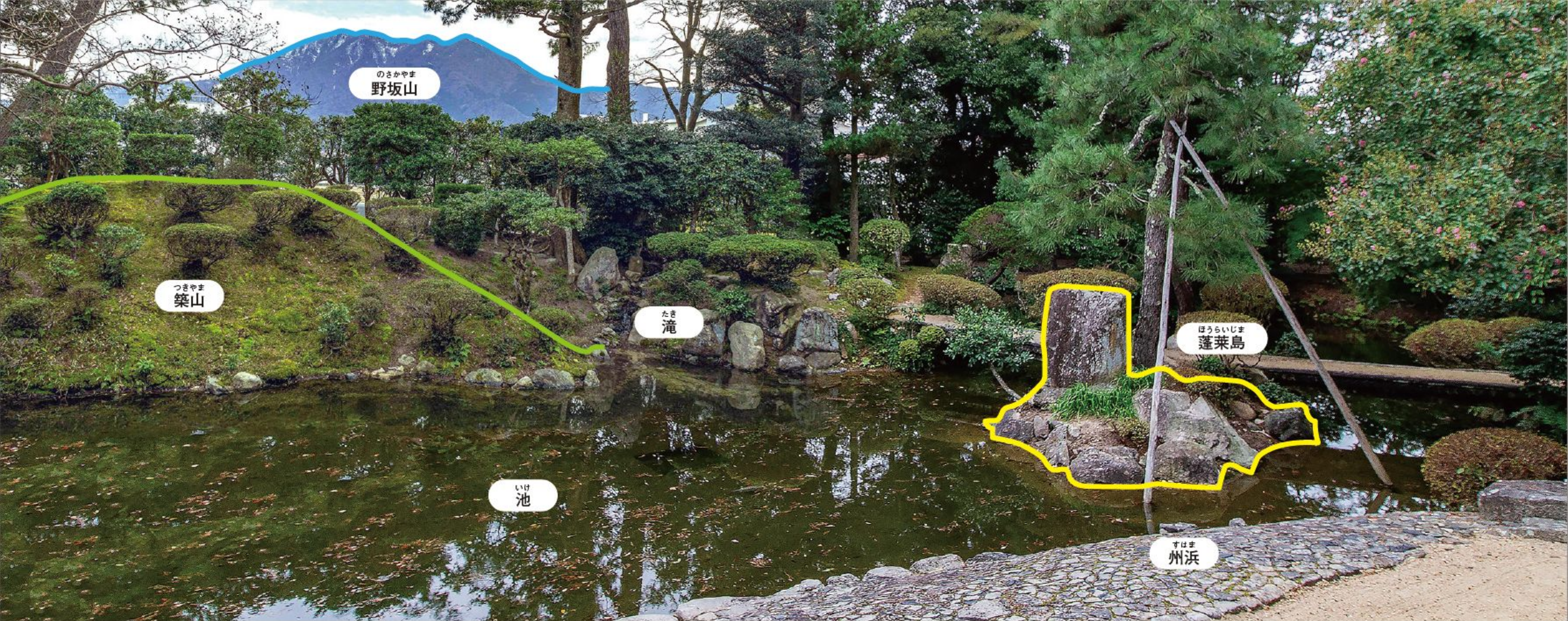
詳しくは上のQRコードからホームページへアクセス



国指定名勝
柴田氏庭園



柴田氏庭園は江戸時代、当地の豪農である柴田権右衛門が、小浜藩主をもてなすために築いた庭園です。
「甘棠館」と名付けられた書院から庭園を眺めると、敦賀富士とも称される野坂山の雄大な姿を望み、四季折々の景色を楽しめます。



柴田氏庭園のしくみ

柴田氏庭園は、甘棠館の別名をもつ書院建物といっしょに作られました。建物の部屋にすわってながめた時に一番美しく見えるよう、庭の木々や石のならびが計算されています。

正面に大きく見える山が野坂山です。庭園はこの山の風景を中心にデザインされ、庭の木は額縁のように野坂山をかざっています。池の向こうには「築山」があります。野坂山と同じような、どっしりとした形の山であり、この築山が手前にあることで、奥にある野坂山がより大きく見えます。

築山の横には水が流れてくる滝があり、そのまわりにはごつごつとした岩山のように石が並べられ、築山のなだらかな稜線とは対称的です。

このようにして柴田氏庭園は、理想的な自然の風景を表現しています。

蓬萊島とは？

池の中に蓬萊島とよばれる島があります。

島にあるひときわ大きい、板のようなこの石は千年生きるといわれた鶴のつばさを表しています。その横の細長い石は、鶴の首と頭を表しています。

その下の水際には島から横に飛び出た石があり、これらは1万年生きるといわれた亀の頭や足を表しています。

つまり蓬萊島は亀の上に鶴が乗る、縁起のよい組み合わせになっていて、見る人の寿命がのびるような願いがこめられているのです。

